
友情家畜

未醒夢観

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友情家畜

【コード】

N0249P

【作者名】

未醒夢観

【あらすじ】

昔書いたものをそのまま上げます。

なかなか……意味わからんしwww

男が友情について語るとい形式です。

「友人とは何だろうね？」

そいつは革張りのイスに座り直した。

「友人とは何か？ 友情とは何か？ この質問には退屈な答えを予想する人が多いはずだね？」

そいつは足を組み替えた。

「例えば、学校を考えてみてくれ。机を並べた同じクラスの人たちは『友達』だね？ 少なくとも『友達』になるのが自然と考えられる。さらにその『友達』という関係は一般人には好まれる関係だ。

『一年生になつたら友達百人できるかな？』のようなものだね。でもさ、百人は不可能な願望だと分かるかい？ 量以前に百人とは沢山いることの象徴なのだから。百人ぴつたりを望むわけではもちろん無いわけだし。たくさんも友達はいらないんだ。そんなに気が置けない人が沢山いたらプライベートなんてあつたもんじゃない」

そいつは、イスの横にある机の上のコップの水を飲んだ。

「ところで競争相手、例えば塾の生徒やスポーツ選手の『友達』等は不自然だと思わないかい？ そいつ等は、ライバルで蹴落とす相手なのにも関わらず『友達』なんて。きっとライバルと信頼関係を築いて、油断させているんだろうね。欺いているんだ。自分と競争相手との『友情』を用いて。」

そいつは一呼吸おいた。

「でもキケロという哲学者には『友人とは『家畜』のように『最大の利益』を基準にして選ぶべきではなく、『もう一人の自分』として理解するべきだ』と、言っているんだ。おもしろいね？ 矛盾するじゃないか。ライバルとしての『友達』は自分の利益のみなのに、キケロさんは違つという。なぜだろうね？ それにキケロさんにも哲学者友達が沢山いたんだよ？ そう考えるとキケロさんは欲のない人なんだね？ 僕は欲のない人生なんて嘘だと思ふな」

そいつはコップに口を付けるが水は飲まなかった。

「反対の意見もある。哲学者デモクリトスはこう言った。『多くの人は友人が裕福な状態から貧乏な状態に落ちぶれると、その友人を避け始める』だってさ。あと、哲学者、ラ・ローシュフコーもこう言ってた。『人間達が友情と名付けたものは、社交、互いの利益の調整、世話の交換にすぎない』いやー楽しいな！」

そいつは、にやにやしていた。

「ラ・ローシュフコーさんは一般人が言っている『友情』を根底から否定したんだよ？ キケロさんとは逆だ。にもかかわらず互いの利益の調整っていう事からも分かるように、自分の利益のみを追求していないんだ。キケロさんと被るんだね？ 矛盾しているのに重なるんだ！ 楽しいな。」

そいつは足をぶらぶらさせた。

「キケロさんの『ラエリウス』という作品を知っているかい？ 『友情について』とも言われているんだ。大まかに言うと、ある偉い人がラエリウスに『お前の友人グラックスの為なら何でもすると言っただな？ なら神殿に、火を放てと言われてもか？』だって。偉い人はプロッシウスって名前だけど、きっと友情の『何でも』の範囲が知りたいんだろうね？ ちなみにラエリウスは火を付けられなかった。犯罪だからね？ 『友達』の為でも罪は犯せないんだって。これって自分の利益を追求してないかい？」

そいつは手を前に組んだ。

「『何でも』は嘘なんだ。『友達』の為でも犯罪は無理らしいよ？滑稽だね？ 所詮はキケロさんもラ・ローシュフコーさんが言っている『友情』と同じなんだ。また反対意見どうしが被るね」

そいつはコップの水を飲み干した。

「話は変わるけど『友情』と『恋愛感情』の同一化についてどう考えているかい？ 哲学者モンテーニュは友人について、こう言う。

『一人の人間の持てる友人はただ一人であり、友人とは分身のようなものだ』だってさ。『もう一人の自分』として理解するべきだと

言ったキケロさんと被るところがあるね？ たしかにフランス文学にも死にそうで見捨てられた人を、ただ一人で看病し続けるとかよくある。最初に戻ると、『友情』と『恋愛感情』が同一になるのか、とは『男女間の友情はあるのか？』ということにもなるね？ そして、このモンテーニユさんの考えは『友達』の感情、すなわち『友情』だけでなく、『恋愛感情』にも通じる。二人の人間を一つとして完結するものだから。三人以上の『恋愛関係感情』は無いからさ。あと『恋愛感情』は『友情』派生系だということも分かるね？」

そいつは水差しからコップに水を足した。

「でもね、よく考えて。『友情』と『恋愛感情』は対等じゃない。なぜなら、友情は双方向的であると僕たちは考えているから。つまりは、僕が君を好きなら君も僕が好きなんだ。僕が君の事が好きなのに君が嫌いでは、僕がただ君のファンであるだけだ。それでは『友達』とは言わないね？ でも『恋愛感情』は違う。僕が君のファンでも『恋愛感情』と呼ぶんだ。こつとも取れる。たとえお互いが好きでも、ドイツの哲学者ヘーゲルの言うように『欲望の究極の対象が他人の心』ならば、お互いの思いにも差があるんだ。必ず。その時点で対等じゃない、不均衡な関係だといえるね。楽しいなこう考えると！」

そいつは眼鏡のブリッジを押しあげた。

「『友情』は均衡『恋愛感情』は不均衡。おかしいね！ハハハハ！そんなことに一喜一憂しているんだよ！ みんなは！ あいつが友達なんだ、とか言ってもその関係は、はたして均衡なのか？ 『何でも』できるのかい？ それこそ神殿に火を放てるのかよ！ ハハハハ！ あの人が好き……とか言っても一生不均衡な関係だよ！ バカな奴だよ！ みんなは！ ハハハハハハハ！ だから面白いんだ！ ハハハハハハ！」

そいつはさんざん笑い終えた後、落ち着いた。

「すまない。取り乱しちゃったよ。最初の結論を出そうか『友情』とは何かだよな？ 『友情とは存在し得ないものなのだ』格言みた

いだね」

そいつは立ち上がった。

「『友情』とは自らの利益のみ追うだけじゃだめなのに、自分の利益を損ねちゃいけないんだよ。矛盾しているのに同一な物なんだ！矛盾同士が生きている二律背反だ。そんな存在し得ない事マンガや、それこそ二次元にしかないんだよ！ 八八八八八八八！」

そいつは歩き出した。

「そうさ。相手の利益を消すと『友情』も喪失。自分の利益を消しても然りだ。『恋愛感情』も同じようなこと。いや、それ以下だ。それが存在するとか、そんな美しすぎることは妄想の産物だから、二次元やマンガの世界に追いやらしてもらおう。この世ではそれらの単語は飾りにすぎない。それなのに人間は存在の無い物の一挙手一投足に心を機微させるんだ！ 愚かだろ？ 八八八八八八八八！」

そいつは言った。

「『友情』や『友達』、『恋』などは歌われ、讃えられ、奉られてきただろ？ 今まで。使い方を知らないくせに！ 使い方の知らない奴らに！ 何のマネだ！ 滑稽としかいえない。八八八八八八八八八八！」

そいつはまた言った。

「わかったか？ そうなつてくると今まで『友達』と呼んでた奴らを、『恋人』と呼んでた奴らをどう呼べばいいか分からなくなっただろ？」

そいつはニヤリと笑った。

「お前等の友情、恋愛感情は自分の利益のみだ！ だから喧嘩するし、喜ぶんだ。そのぬか喜びも自分目線だ！」

そいつは深く息を吸った。

「自らの利益を求めるのみの関係。これしか呼び名はないだろ？」

そいつは言い切った。

「家畜だ！ 家畜だ！ 家畜だ！」

そいつは床に座り込み笑い続けていた。

「ハハハハハハハハハハハハ！」

だから、私はそいつを殺した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0249p/>

友情家畜

2010年11月20日15時10分発行